



Forza SANGA Per Favore

激闘のあと。 再挑戦のはじまり。

グラウンドには夢や感動、喜び、悲しみが転がっています。
それをみなさんと分かちあいたい。
昨年は生まれかわったチームが懸命に成長しようとした1年でした。
今年こそボクらとともに子どもから大人のチームに成長して、
みんなでJリーグに行きましょう。

京都パープルサンガ・キャプテン 美濃部直彦（談）

取材・文／大塚祐希
写真／内藤貞保・小笠原圭彦

Forza SANGA
Per Favore

PHOTO BY OGASAWARA



Forza SANGA Per Favore

すでに用意されていた選手たちをどう機能させるかが課題だった。

JFL後半戦半ばで、嶋谷征四郎監督の突然の休養。その後、チームを引っ張っていかねばならなかったのは、他でもない、この与那城ジョージだった。今季、JFLは混戦の内、ライバルであった柏レイソル、セレッソ大阪のJリーグ昇格が決定し、シーズンは幕を閉じた。パープルサンガには20勝10敗、総合5位という苦い結果を残して...

94年1月11日、京セラパープルサンガ創立記念パーティーでは新しく入団した選手たちとともに紹介され、新生サンガの誕生に会場の誰もが期待に胸を膨らませずにはいられなかった。が、ヘッドコーチ、与那城ジョージのパープルサンガ入団が決定したのは、新入団選手・スタッフの中では最も遅かった。それは新規加入選手たちが、与那城ジョージと嶋谷監督との話し合いの上で召集されたメンバーではないことを意味していた。「新加入選手の活躍、特にJリーグでやってた選手たちのこれまでの活躍については、よく知ってますよ。これだけ優秀な選手ばかり集めて頂いたからには、なんとしてでも目標（Jリーグ入り）を果たさなければなりません。それができるかどうかがコーチの腕の見せ所です」と、当時のジョージは

コメントした。今から思うに、個人的な技術レベルの高い選手を急ぎよ集めて作ったチームの恐さを、すでにこの時点で感じ取っていたのではないだろうか？

現に各スポーツ誌では、今でも同時に新チームとして結成されたセレッソ大阪を「エミリオ・ファミリア」、パープルサンガをいわば「寄せ集めチーム」と捉えているようだ。

「もちろん、セレッソとの比較で言えば、結果を見て皆さんがそう判断されるのはわかります。しかし、シーズン開幕前でケガや故障をする選手が続出して、初期のうちにサンガのプレイスタイルを築くことが遅れてしまった。確かに開幕から9連勝したものの、ゲーム内容としては決して良いとは言えなかった。そして、内容的には今季最も充実していた第10節・レイソル戦は延長Vゴールで負けてしまった」

試合内容の波が最後まで影響した今シーズン

「レイソル戦の敗戦で、ゲーム運びが揺らいできた。チームの悪いところがここから一気に出てしまった」とジョージが語るように、以後第11節・富士通戦、第12節・セレッソ戦まで、まさかの3連敗を喫し、Jリーグ入りに早くも暗雲がたれこめる。

「サンガの選手は試合内容を相手に合わせすぎるところがあります。相手の出来が悪ければ、同じように悪くなるし、逆に相手の調子が良ければ、つられて良くなる。だから、例えば練習試合でJリーグのチームと戦っても黒星はなかったり、レイソルというチームをするのに、負けてはならない相手に負けることもあるんです。しかもウチの選手は相手に先制されたり同点に追いつかれると、とたんに消極的になってしまふという悪いクセを持っているんですね。前期のフルククス戦では何回「上がれ！」と修正してもダメなんです。全然上がろうとしない。思い切って全員が前でプレイすればいいんですけどね。ボールをとにかく相手の陣地に放り込むと同時にバックスラインを押し上げて、前で拾えばいいんですから。でも、だいたいそうなんちゃった時は、選手たちがまったく冷静さを失っているんで、うまくいかない」

この現象は選手たちの間で、あるひとつの戦術が徹底されていないことを如実に物語っている。チームの戦術が明確化していたなら、ジョージの指示どおりに試合を運べたはずだからだ。

「選手個々の能力を見れば、セレッソに決して引けをとらない優秀な選手たちが揃っていると思っっています。ベテランはいっぱい経験を積んでいます」



し、新人はそれぞれにいい持ち味を持っていきますから。カレカをマークした井原も若いですけどよくやっと思えますよ。だから、その局面局面に応じた選手の起用をしてきたつもりです。何よりも経験を必要とする場面にはベテランを使っただし、新人の持ち味を活かせるところで新人をどんどん投入してきました。しかし、試合中の波を完全になくすことはできなかった。それが結局シーズンを通して残された課題だと思えます」

チームの戦い方が完成していない

サンガのサッカーを！

与那城ジョージインタビュー

試行錯誤の末作り上げた得点パターン アンジェロのポストプレイ

NO.15 アンジェロ・カルロス・ブレッチ

第16節PJMフューチャーズ戦、アンジェロのポストプレイを狙った布陣が的中。クサビになったアンジェロから野口へつないで決めるパターンが3度。野口のハットトリックの陰には、ポストマン・アンジェロの忠実なプレイがあった。



PHOTO BY NAITOH

MEN OF THE YEAR

読売の黄金期も体験した。Jリーグ元年も見た。

「ワールドカップに最も近づいた日」には

日の丸を胸に戦った。そんな男が今目指しているのは、

京都パープルサンガというチームをJリーグの舞台に押し上げること。

おおいに苦しんだ今季を振り返り、心を新たに再挑戦の闘志を燃やす。





Forza SANGA Per Favore

が、決して試合は落とせない。ジョージの今年の選択は選手個人の力に賭けることだった。しかし、個人技で戦えるほど圧倒的な強さを誇る選手が、サンガにはいなかった。そんな疑問を抱かずにはいられない。「もちろん個人技だけを見れば、リーグにはもっと凄い選手がゴロゴロいますよ。左サイドバックの都並選手、絶妙なスルーパスのビスマルク、ドリブルでいえばリトバルスキー。どれも名古屋グランパスの時代にイヤというほど見せ続けられてきましたからね。リトバルスキーなんかは、もう誰にも止められませんよ。もし、ウチのチームがリトバルスキーと戦うことになったら、もう彼には構わずプレイするしかないでしょうね(笑)。「もう、好きにやってくれ。俺たちはこっちはプレイしてるから」って感じで」

チーム戦略のベースを作ること。これは一年でできるものじゃない。

サンガとセレッソの大きな違いは、攻撃時において、爆発力がなかった点も挙げられる。両チームの1試合最多得点はセレッソの11点に対し、



サンガは5点だった。この数字から分析しても、攻撃スタイルが確立していないことは否めない。ジョージが選手・監督として18年間所属していた読売クラブ(現ヴェルディ川崎)は、現在攻守ともに安定したチームとしてJリーグ初年度のグラッドストンチャンピオンに輝いた。言うまでもなくヴェルディの組織的サッカーは高く評価されている。

「ヴェルディも突然強くなったわけではありません。長い読売の歴史の中で何度も試行錯誤を繰り返して、ようやくスタイルを一本化できたから、こうして強い戦力を維持できているんですね。選手個人の能力が高いだけでは、あそこまで安定して強くはなれませんよ。誰かひとりが欠場したら、そこに穴が開いてしまわなければならない。でも、チームのスタイルのベースさえできていれば、代わりの選手を投入しても戦力全体にマイナス影響は出ないはず。ポジションチェンジなど、いろんなことができるようにする。そして、ゲーム途中で戦術を多少変更しても、すぐに元に戻すことができる。選手はもちろん自分がそれぞれ何をやるべきか知っている。チームにとって最もいいのは時間がかかってもひとつのベースを築くことです。ヴェルディがなぜ強いかというと、チーム戦略のベースができていて、そのベースに沿っていても優秀な選手だけがチームに残るようにしているからですよ。でも、私は別に「3年後のチームをつくらう」と言ってるわけじゃないんです。私はあんまり、そんなの好きじゃない。その年を精一杯戦うから、翌年の構想が見えてくるんですよ。JFLの戦いにおいては、1年で結果を出さなければならぬ。そこが今、私にとってもチームにとってもいちばん難しいところですよ」

与那城ジョージの新たな挑戦はすでに始まっている。



読売でラモスとともに中盤を築き、優れたドリブル技術で多くのサッカーファンを魅了した選手時代、読売という最強チームを率いた監督時代、ヘッドコーチとしてサッカーの新時代の幕開けを体験した名古屋クラブ・スエイト時代と、日本のサッカーの歴史の要所所で大きな役割を果たしてきた与那城ジョージ。勝敗に対して最もシビアなJFLでは、どのような戦術で戦おうとしているのだろうか？

「私は別に特別なサッカーをパープルサンガにもたらそうとしているわけではありません。ただ、いつも繰り返し繰り返し選手たちに言っていることは、空いたスペースでプレイすることです。どんな強いチームでも、1試合の中で必ず調子の悪い選手はいるものです。調子が悪いと必ずそこにスペースができるので、そこを上手く使ってプレイすればすいぶん思うようにゲーム運びできるはず。実際にシンプルなことなんです。それがサッカーのいちばん大事なところなんですよ」

JFL優勝を目指すチームにしては、単純すぎるようではあるが、サッカーの本質はまさに彼の語るこの部分

にある。シンプルな戦術ゆえに意識統一がかりやすく、しかもこれを実践するためには、冷静な判断力が欠かせない。全員が何をやるべきかを正確に把握し、冷静なゲーム運びをする。これに今季サンガの選手が時折垣間見せた高い個人技が調和するときこそ、京都パープルサンガがJリーグ界格という大きな目標を果たす時に違いない。その鍵を握っている人物こそ、この与那城ジョージなのだ。

取材協力
京いち
京都市下京区東洞院通堀小路下ル
東堀小路町849 ルネサンスビル4F
075-365-0240



(プロフィール)

与那城ジョージ
50年11月28日、ブラジル・サンパウロ州生まれ。A型。両親は沖縄県出身。幼い頃からサッカーで遊ぶ。72年に日本に渡る。72-75年は読売の攻撃的MFとしてラモスと中盤を築いた。85年、日本国籍を取得し、翌86年には日本代表メンバーとして木村和司の伝説のフリーキックで記憶に残るW杯予選(韓国戦)に出場。86年から90年は読売の監督を務める。92-93年は名古屋グランパスエイトのヘッドコーチとして活躍。94年、京都パープルサンガのヘッドコーチに就任。今季、嶋谷監督休養以降は監督代行を務めた。



PHOTO BY NAITOH

MEN OF THE YEAR

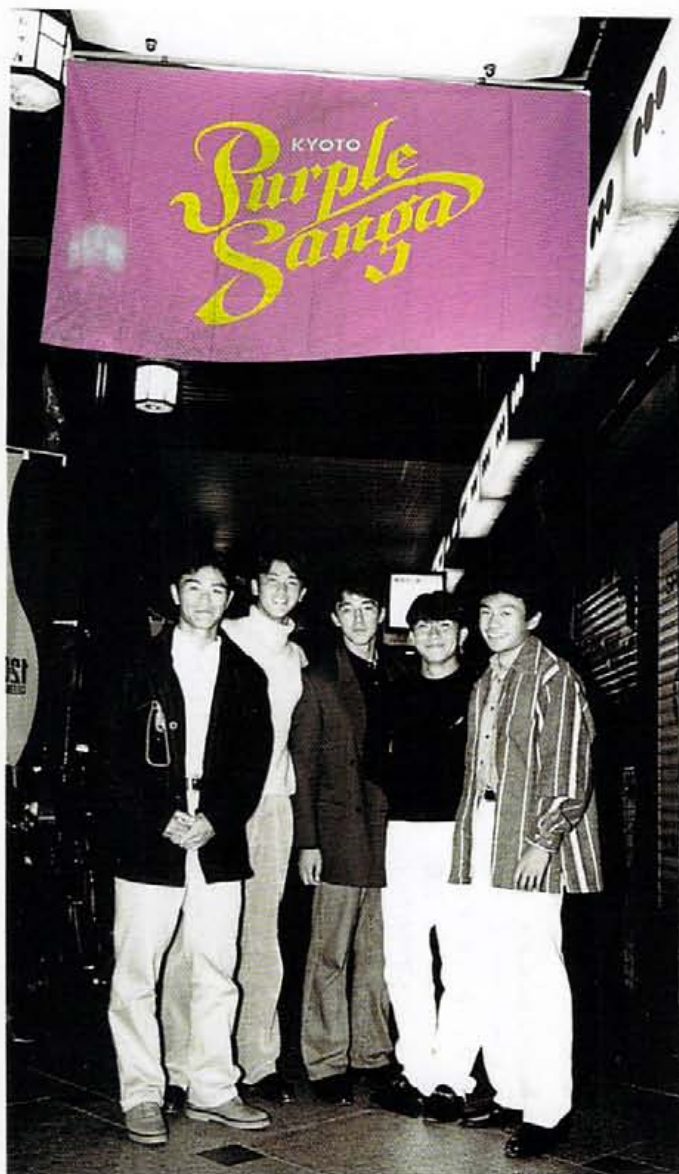
褐色の点取り屋、颯爽と登場
サンガ初めて会心の勝利

NO.10 パウテル・フェレイラ・ルース

第3節NEC山形戦。開幕2試合を連勝したものの、得点はセットプレイによる2点だけ。点を取りたい嶋谷監督が「速い動きに対応できる」と起用したパウテルが期待に応え2得点。DF杉山の得点もありサンガは3-0と初めて快勝した。



Forza SANGA Per Favore



フレツシユ・サンガ、厚顔無恥にシーズンを語る。

出席者
井原康秀 (MF・21才・3年目)
細川浩三 (MF・23才・1年目)
野口裕司 (MF・23才・1年目)
木村哲昌 (DF・23才・1年目)
成山裕治 (DF・23才・1年目)

20勝10敗、総合5位。
この結果をどう捉えるか？

一同 乾杯！
井原 さ、飲んで飲んで。
木村 お前、また人にはっかり飲ませるんだから。
成山 テツ（木村）、気が付けないアカンで。酔っ払ったところで一気に襲われるぞ。
（一同爆笑）
井原 もね、そのもろホッホッホ、何と

サンガの若手選手たちにとっては、すべてが勉強のシーズンではなかっただろうか。多くのベテラン選手、外国人選手たちと同じ目標に向かって戦い続け、彼らはいったい何を感じてきたのだろうか。和気あいあいとしやぶしやぶをつつきながら、本音で語ってもらった。

かしてくださいよ。そのせいで何人ファンをなくしたとか……
成山 あ、でも、ここ地下やし、モッホッ電波届けへんか。携帯電話みたいな圏外表示出てたりして……
野口 何なんだよ、それ。
成山 最近は、ジョージさんと怪しいらしいで。マルコ説もあるしな。
木村 相手がココロココロ変わるから野口 最初の相手は遠藤さんだったらしいけど。

本誌 さて、話題をサッカーに変えましょう。今年の成績は20勝10敗で総合5位。これまでを振り返って、どうだった？
木村 ……不本意。まさにその一語につきる。
細川 でも、今、振り返ってみたら、この順位はなるべくしてなったような気がするなあ。上位4チームを見ると、やっぱりこの順位かな。
野口 上位チームには後期のブルックス戦以外、勝てなかったのが痛い。
成山 セレッソからは結局1点も取れへんかったしなあ……
井原 それにJリーグを目指してないチームとの試合まで取りこぼしたでしょ。それがかなり響いてる。
野口 ここぞという時に点を取るという「決定力」が欠けてたような気がする。これは自分にもチームについても言えることだけだ。
本誌 その「決定力」っていうのは、得点の取り方のこと？
成山 セレッソは点を取る形がピシッと決まってるけど、ウチはこれといった形がない。点を取れたら「おお、イケたゾ！」みたいな感じやかな。練習試合でもそうやんか。
木村 ウチは試合中の個人の役割が、ハッキリしてない所があるじゃん？
本誌 そのへんは井原選手が結構大変だったんじゃないの？ 後期のPJ M戦ではいきなり左サイドバックもやったりして。試合の後「キツかったあ〜」って言ってたでしょ？
井原 言っちゃったねえ！ 確かそんなこと。
成山 チームの戦い方がまだわからん所があるよな。そこが今回Jリーグ上がったチームとウチとの大きな違いやと思う。早くみんなで、チームの形を作らなアカン。

今季のベストゲーム。
そして好ブレイ、珍ブレイ。
本誌 何か、暗い雰囲気になってしまっているんで、そろそろ明るい話としようか。ベストゲームの話にしましょうか。
成山 俺は後期のブルックス戦が良かった。1試合を通して集中力を持続できた。ディフェンスの人間はどうやって集中力が切れないようにするか？課題やから。
野口 確かにあの時は相手の攻撃陣をよく押さえてたね。
細川 俺もあの試合が良かったと思う。13試合ぶりにゴールできたし。
成山 13年ぶり？（一同爆笑）俺、小4の時からお前を見てたけど、自分でボールをドリブルで持ち込んでシュートに持っていたんを見たのは初めてやったわ。
本誌 細川選手は主にパス出す方が多いの？
細川 絶妙なパスワークで、スッとボールを出す（笑）。
成山 昔はお前のパスは「味方殺しの殺人パス」って言われてたのになあ。俺がウイングでボールもらおうと思ったら、必死で走ってギリギリ追い付くぐらいのパスを出しおんねん。お前にパス出されたら、無茶苦茶しんどかったわ。
野口 俺はVゴールを決めた前期間開幕戦（本田技研戦）とハットトリックを決めた後期間開幕戦（PJM戦）が自分にとっていちばん良かった。
成山 開幕戦しかアカンねん、コイツは。
野口 そうそう、開幕戦。
成山 それから、オフ明けも。
野口 そうそう、オフ明け。
成山 あとは、ケガで休んだ後か？
野口 ウルサイよ！
（一同爆笑）
木村 俺も後期間開幕戦で初出場して、序盤で相手選手とぶつかって負傷退場。初めてフル出場したN.T.T関東戦じゃ、足ツツちゃったから。
細川 お前、すぐ足ツツよな。俺もよく肩が外れるけど……（笑）
木村 でも、俺のおかげでみんな水飲



木村哲昌 (DF)

めたじゃない。
成山 誰か倒されたら「おい！みんなが水飲むまで、そのまま倒れとけ！」とかゆうの、あるよな。
野口 水飲みに行きにくいセンターのポジションはあれでいいぶ助かる。
本誌 井原選手はこの前のレイソル戦でカレカに密着マークして、結構いい仕事してたと思うけど、カレカの印象はどうだった？
成山 なかなかエエ体してたらしいで。(一同爆笑)
井原 だから、違うって！
成山 でも、あのハンドは笑いモンやったで。あんなん退場や！
井原 あれば、太陽が目に入ってホ

ールが見えなかったんですよ！でも結局、PKをキーパーの木寺が止めてくれたからいいじゃないですか。結果オーライですよ。
木村 あの時、みんな「アッ！」って、その場で固まってたゾ(笑)。井原 でも、カレカはやっぱリスコイ。ヘディングはメチャクチャ強かったし、キーブ力はすごいし……。
成山 あれだけすごい選手がチームにいたら「ゴイツがボール持ってる限り、絶対取られへん」と思って、安心して上げられるもんな。
本誌 ベストプレイヤーというと、自分のどんなプレイが記憶に残ってる？
野口 僕はやっぱり後期開幕戦(「PJ M戦」)のハットトリックつスね。大学時代にも何度かハットトリックやったことあるけど、やっぱりプロに入ってからの方がずっとうれい。
細川 俺は後期フルックス戦での決勝ゴールかな。
本誌 いつもはそんなに派手に喜ばないのに、あの得点はものすごくうれしそうだったね。
成山 俺らはディフェンスの人間からベストプレイヤーっていうのは特にないなあ。ディフェンスは1試合を通してナンボやから。
本誌 チームとしたら、後期の東芝戦なんか良かったと思うけど。
成山 ウチは調子に乗ったら勝てんなん。先制されたり追い付かれたりしたらやっぱり悲惨やけど。

本誌 それにしても、後期のディフェンスはちょっと荒れてたよね。イエローカードいっぱい出たし。
成山 俺、後期は前期ほど試合に出してもらってないから、イエローカードもらうチャンスもなかったわ(笑)。
本誌 やっぱリチームの調子が悪いと、荒れてくるの？
野口 確かに今季の試合って、振り返ると波が激しかったよ。
木村 1試合の中で調子が良かったり、悪かったりしてたから。
成山 中心になってる外国人選手が好調の時と不調の時の差が激しかったせいもあるんちゃうか？ウチは試合中の波が激しいから1点の得点を最後まで守りきって勝つのが難しい。耐えて耐えた前期のレイソル戦もVゴール決められてしまし……。あれ、PKに持ち込めてたら勝てると思ってたのに。
井原 前期の富士通戦がとにかく痛かったつスよね。
成山 ああ、あれはシーズン通して尾を引いたな。もし、あれに勝ってたら、次のセレッソ戦の戦い方も変わってきただんどうやうか？富士通戦で2敗目になったから「もう負けられへん試合」のディフェンシブな戦い方になったやんか。
野口 2-0から引つ繰り返されちゃったからな。
細川 ハウテルのフリーキックはあと5センチで入らへんし、ミューレルもシュートを外したし。
井原 あればシヨッキングでしたな。

チャレンジし続けた1年。印象に残った選手たち。
本誌 これまで戦ってきて、どんな選手が印象に残った？
井原 オレはカレカがいちばん印象的だったつス。
成山 NTT関東のセンターフォワードの松崎にはたいぶ苦労したなあ。ヘディングがムチャクチャ強くて。
井原 コスモ石油の李と金もイヤだったつスよね。
野口 ああ、あの8番9番コンビね。
成山 あのふたりは、迫力がスゴいわ。後期のコスモ石油戦は俺、試合出てなかったけど。
井原 動かない選手はそんなに恐くないんですけど、やっぱり運動量が多い選手は苦手だよな。
木村 おれはレイソルのネルシーニョが嫌い。
野口 ネルちゃんにはポジション取りがすごく上手いね。
細川 PJ Mのウーゴもすごい。早いし、キーブでできるし、強いし。
成山 練習試合でウエルディと試合した時、ビスマルクの上手さにはビックリしたなあ。
細川 ボール持たれたら、全然奪い返せない。確かにスゴかった。
本誌 チーム内でもスゴイなって思う選手はいる？
木村 ポジション柄、オストラサのプレイがとてめ勉強になるよ。ポジション取りは見習うところがいっぱいある。
成山 杉山さんみたいな話を俺らにしてくれるよな。あの人は実際にジーコと一緒にプレイしてきたから、よくジーコの話をしてくれるんやけど、俺らはジーコと一緒にやってないから、伝わらんところがあるやん。そのギャップを埋められたらもっといんやけどなあ。

そして来季、心を新たに再チャレンジする。
本誌 サンガがJリーグ入りを目指してからこうして皆さんプレイしてきたわけだけど、若手の選手がこれだけの経験を積んでラッキードったんじゃない？
井原 オレたちみたいなそんなにキヤリアがない人間が起用されたっていう点ではラッキーだったつスよね。
本誌 絶対に1、2位にならなければならぬ点では、JFLはある意味でJリーグよりも厳しいところだけど、どうやって戦うのがいと思う？
井原 八日市にクラブハウスもできて、ようやく体制も整ってきたことだし、あとは「これだ」っていう自分たちのサッカーを作らないと。

本誌 やっぱリチームの調子が悪いと、荒れてくるの？
野口 確かに今季の試合って、振り返ると波が激しかったよ。
木村 1試合の中で調子が良かったり、悪かったりしてたから。
成山 中心になってる外国人選手が好調の時と不調の時の差が激しかったせいもあるんちゃうか？ウチは試合中の波が激しいから1点の得点を最後まで守りきって勝つのが難しい。耐えて耐えた前期のレイソル戦もVゴール決められてしまし……。あれ、PKに持ち込めてたら勝てると思ってたのに。
井原 前期の富士通戦がとにかく痛かったつスよね。
成山 ああ、あれはシーズン通して尾を引いたな。もし、あれに勝ってたら、次のセレッソ戦の戦い方も変わってきただんどうやうか？富士通戦で2敗目になったから「もう負けられへん試合」のディフェンシブな戦い方になったやんか。
野口 2-0から引つ繰り返されちゃったからな。
細川 ハウテルのフリーキックはあと5センチで入らへんし、ミューレルもシュートを外したし。
井原 あればシヨッキングでしたな。

チャレンジし続けた1年。印象に残った選手たち。
本誌 これまで戦ってきて、どんな選手が印象に残った？
井原 オレはカレカがいちばん印象的だったつス。
成山 NTT関東のセンターフォワードの松崎にはたいぶ苦労したなあ。ヘディングがムチャクチャ強くて。
井原 コスモ石油の李と金もイヤだったつスよね。
野口 ああ、あの8番9番コンビね。
成山 あのふたりは、迫力がスゴいわ。後期のコスモ石油戦は俺、試合出てなかったけど。
井原 動かない選手はそんなに恐くないんですけど、やっぱり運動量が多い選手は苦手だよな。
木村 おれはレイソルのネルシーニョが嫌い。
野口 ネルちゃんにはポジション取りがすごく上手いね。
細川 PJ Mのウーゴもすごい。早いし、キーブでできるし、強いし。
成山 練習試合でウエルディと試合した時、ビスマルクの上手さにはビックリしたなあ。
細川 ボール持たれたら、全然奪い返せない。確かにスゴかった。
本誌 チーム内でもスゴイなって思う選手はいる？
木村 ポジション柄、オストラサのプレイがとてめ勉強になるよ。ポジション取りは見習うところがいっぱいある。
成山 杉山さんみたいな話を俺らにしてくれるよな。あの人は実際にジーコと一緒にプレイしてきたから、よくジーコの話をしてくれるんやけど、俺らはジーコと一緒にやってないから、伝わらんところがあるやん。そのギャップを埋められたらもっといんやけどなあ。

そして来季、心を新たに再チャレンジする。
本誌 サンガがJリーグ入りを目指してからこうして皆さんプレイしてきたわけだけど、若手の選手がこれだけの経験を積んでラッキードったんじゃない？
井原 オレたちみたいなそんなにキヤリアがない人間が起用されたっていう点ではラッキーだったつスよね。
本誌 絶対に1、2位にならなければならぬ点では、JFLはある意味でJリーグよりも厳しいところだけど、どうやって戦うのがいと思う？
井原 八日市にクラブハウスもできて、ようやく体制も整ってきたことだし、あとは「これだ」っていう自分たちのサッカーを作らないと。

移籍14試合目の初得点にイレブンが狂喜乱舞
エバートンが爆発した日
NO.0 エバートン・ノグエイラ
第13節に初出場以来、出場10試合で18本のシュートを放ちながら無得点、焦りさえ見せていたエバートンに草木から浮球のパスがきた。それを左足で合わせるとボールは簡単にゴールへ。待ちに待った初得点は、第27節東京ガス戦でのことだった。



PHOTO BY NAITOH

MEN OF THE YEAR



Forza SANGA Per Favore



井原康秀 (MF)



成山 それより、はよ車の免許取れ！

井原 オレには専属の運転手がいるからいんすよ。

成山 ほな一回ぐらい高速道路代払えよ。

(二同爆笑)

成山 あと食事を付けてくれたら言うことないのにな。まあ、パパには関係ない話やけど(笑)。

細川 ババって呼ぶな！

成山 最初、子供の名前聞いたとき

そろそろ話を締めくりたいと思うんだけど、来季の目標とか、今後の課題は？

井原 とりあえずはトップで試合に出て、自分がどれだけ活躍できるかです。

木村 今の倍ぐらいは仕事して、1試合でも多く出たい。自分の力もちろん上げなきゃならないんだけど、チーム全体の力ももっとつける。そして、来季はJリーグに上がる。みんなで上げる。

細川浩三 (MF)



細川 今年やってきた中で、自分の進歩を感じることができた。来年もこれを継続して、来年は、例えば5年先はどれだけのレベルでプレイしているかを描けるような一年にしたい。

野口 だいたいみんなと同じになっちゃうんだけど...

成山 お前、いつもみんなと同じ意見やなあ。お前の目標はナマリを直すことか？

野口 ウルサイよ。まず、レギュラーポジションを獲得して、来年こそは得点王を狙いたいね。

成山 個人としては、もちろん1試合でも多く出るのが先決。今年1年プレイしてきて自分なりに課題ができたと思ってるから、来季はこれができる限り克服して行かなアカンと思ってる。

本誌 とにかくJリーグに上がるといふ共通の目的があるんだから、あと、自分たちの「これだ」っていうサッカーを早く固めないと。みなさんの来季の活躍に期待しています。今日はどうもありがとうございませう。

井原 シャブしゃぶまだ残ってますよ。みんな、もっと食べないんすか？

成山 「さぶ、さぶ」？それはお前の愛読書や！

井原 もお、それやめて下さいよ！本当にファンなくしちゃいますよ。

木村 男のファンがいっぱいいた



は、ビックリしたて。士優斗(しゅうと)君やもん。

細川 子供はカワイイよ。

成山 家に帰ったら、ご飯作って待ってる人がいるだけでも、俺らにとったらうらやましいわ。

この前、会社に「朝ご飯だけは毎日つけて欲しい」って言うたけど、つけてくれるやろか。

本誌 毎日外食ばかりじゃ、辛いよね。(一同行なすく) Jリーグも含めて進んでいるチームは栄養士までちゃんといてるからね。さて、

細川 今年やってきた中で、自分の進歩を感じることができた。来年もこれを継続して、来年は、例えば5年先はどれだけのレベルでプレイしているかを描けるような一年にしたい。

野口 だいたいみんなと同じになっちゃうんだけど...

成山 お前、いつもみんなと同じ意見やなあ。お前の目標はナマリを直すことか？

野口 ウルサイよ。まず、レギュラーポジションを獲得して、来年こそは得点王を狙いたいね。

成山 個人としては、もちろん1試合でも多く出るのが先決。今年1年プレイしてきて自分なりに課題ができたと思ってるから、来季はこれができる限り克服して行かなアカンと思ってる。

本誌 とにかくJリーグに上がるといふ共通の目的があるんだから、あと、自分たちの「これだ」っていうサッカーを早く固めないと。みなさんの来季の活躍に期待しています。今日はどうもありがとうございませう。



野口裕司 (MF)



成山裕治 (DF)



りして...

成山 そろそろアルコールが回ってきたから、井原、アブナイで。

野口 おいおいおい。

(二同爆笑)

※あのハンド
第24節柏レイソル戦の後半5分。ペナルティエリア内で相手のセンターリングを手で叩き落とそうとしたプレイ。

●取材協力
シャブ神
京都市東山区祇園町南側5-7-1
藤ビルB1
075-541-5421

新守護神PKをみごとストップ
来季GKのポジション争いは激化

NO.31 木寺浩一

故障欠場の植村に代わり、第24節柏レイソル戦で初の先発出場を果たした木寺。最大の見せ場は後半5分、相手にPKを与えた場面だ。ネルシーニョの強烈なキックを判断よく右に跳びファインセーブ。新守護神の誕生をアピールした。



PHOTO BY OGASAWARA

MEN OF THE YEAR

京都パープルサンガ応援コンサート

今シーズン惜しくもJリーグ昇格を逃してしまった京都パープルサンガ。しかし、まだまだ夢はついでしてしまっただけではない。苦しかったシーズンを終えて、選手とサポーターたちが一堂に会するイベントが11月2日、盛大に行なわれた。

優秀選手の表彰式、サポーターからのステージパフォーマンスに加えて、東原力哉、是方博邦、難波弘之、鳴瀬喜博によるスーパーセッションが会場をおおいに沸かせた。



Forza SANGA Per Favore

「京都にJリーグを」市民の会代表の桂さんによるあいさつ。「本当は四条通りのパレードで飾るはずが、大変悔しい思いをした。来年こそは…」と熱っぽく語ってくれました。



サポーター控え室で選手を待ち受けていた女の子たち。誰がお目当てのかな……と思っていたら、この人、エバートン選手でした。半ば強引に記念撮影をせがむ恐るべきこのパワー。

選手たちと同じステージに上がり、大歓声のエールを送るサポーターたち。中には会場じゅうをハダカで走り回り出す人も…。この間、選手たちはすっかり圧倒されている様子でした。



ベストルーキー賞に輝いた野口選手。前期開幕戦のVゴール、後期開幕戦のハットトリックと、開幕戦の勝負強さにおいてはともルーキーとは思えない活躍ぶりを見せてくれました。

サポーターによる応援歌の熱唱。1シーズンの間ずっとサンガを応援し続けてきて、ずいぶんまとまりが出てきました。選手たちもサポーターたちも、もっと大きく成長してほしい。



最も印象的なプレイをした選手に贈られる敢闘賞は、鼻を折った杉山選手。彼がアントラスで受け継いだジークイズムがサンガの選手たちにどれだけ伝わることが、来季への大きな鍵。

サポーター控え室前で見つけたリトル・サポーター2人。ユニフォームを着ているコは京都の試合は全部観に行っているとのこと。お目当ての選手は……またまたエバートン選手！



前期・後期ともにMVPに輝いたのがチームキャプテンである美濃部選手。若手・ベテラン選手をまとめあげ、ここまで引っばってこれたのは、ひとえにこの人の人柄ではないだろうか。

「来年このままの順位で繰り上がっても3位。他のチームもJ昇格を目指して頑張ってくるんだから、来季はそれ以上の努力が必要」と思った以上にサポーターのサンガを見る目は冷静。



「今の実力なら、5位という順位でも仕方ない。今後、大型外国人選手の補強もある程度必要だけど、メンバーをまとめて、まとまりあるサッカーを目指してほしい。長い目で見ます。」



会場に現われた森川選手を囲んで談笑していたサポーターたち。「京都出身の選手が全部帰ってきて、京都人による京都のチームができるが夢」とのこと。この夢が叶う日は来るのか？



表彰後の野口選手のインタビュー。「その茨城ナマリを何とかせよ」。成山選手が後から茶化す場面も見られた。サンガの魅力はこんな若手選手たちの仲の良さにもあるのです。





データで振り返る'94京都パープルサンガ

	試合日	場所	入場者数	相手チーム/スコア	得点者	
○	第1節	4月21日	宝が池	3395人	京都パープルサンガ 1-0 本田技研 (Vゴール)	(京) 野口裕
○	第2節	4月28日	鹿児島鴨池	1437人	PJMフューチャーズ 0-1 京都パープルサンガ	(京) ミュレール
○	第3節	5月 1日	宝が池	3115人	京都パープルサンガ 3-0 NEC山形	(京) パウテル2 杉山
○	第4節	5月 5日	四日市中央	2900人	コスモ石油 2-2 京都パープルサンガ (PK 2-4)	(京) ミュレール オウン・ゴール (コ) 酒井 金
○	第5節	5月 8日	西京極	4725人	京都パープルサンガ 1-1 川崎製鉄 (PK 4-2)	(京) パウテル (川) 田村
○	第6節	5月12日	駒場	2700人	NTT関東 1-2 京都パープルサンガ	(京) アンジェロ オウン・ゴール (関) 松崎
○	第7節	5月15日	宝が池	1367人	京都パープルサンガ 3-0 西濃運輸	(京) パウテル 野口裕 草木
○	第8節	5月19日	西が丘	1000人	東芝 2-4 京都パープルサンガ	(京) パウテル オストラサ 野口裕 細川 (芝) バルデス2
○	第9節	5月22日	太陽が丘	4227人	京都パープルサンガ 5-3 大塚製薬	(京) 森川 パウテル2 草木 細川 (塚) レエ 関口 マリオ
●	第10節	5月29日	柏	14845人	柏レイソル 2-1 京都パープルサンガ (Vゴール)	(京) アンジェロ (柏) ロベス ネルシーニョ
●	第11節	6月 2日	宝が池	2201人	京都パープルサンガ 2-3 富士通	(京) オウン・ゴール 肥塚 (富) 戸沢 堀越 高島
●	第12節	6月 5日	姫路	13000人	セレッソ大阪 1-0 京都パープルサンガ	(阪) マルキーニョス
○	第13節	6月 9日	西京極	3368人	京都パープルサンガ 3-2 東京ガス (Vゴール)	(京) アンジェロ2 ミュレール (ガ) 岡元 アマラオ
●	第14節	6月12日	藤枝	3120人	藤枝ブルックス 3-0 京都パープルサンガ	(藤) 遠藤 ビッコリ 具田
○	第15節	6月16日	西京極	2736人	京都パープルサンガ 3-1 甲府クラブ	(京) 細川 アンジェロ2 (甲) 角谷
○	第16節	8月21日	太陽が丘	3358人	京都パープルサンガ 5-3 PJMフューチャーズ	(京) パウテル 野口裕3 アンジェロ (P) エンリケ 中込 亀田
○	第17節	8月25日	山形総合	1100人	NEC山形 1-2 京都パープルサンガ (Vゴール)	(京) 草木 アンジェロ (山) 広沢
○	第18節	8月28日	宝が池	3526人	京都パープルサンガ 5-2 コスモ石油	(京) アンジェロ2 パウテル 高本 野口裕 (コ) 赤澤 金
●	第19節	9月 1日	神戸中央	4307人	川崎製鉄 5-1 京都パープルサンガ	(京) 野口裕 (川) 藤井 パウロ 中尾 田村 アダウベルト
○	第20節	9月 4日	西京極	3144人	京都パープルサンガ 1-1 NTT関東 (PK 5-4)	(京) オウン・ゴール (関) 松崎
●	第21節	9月11日	大垣総合	611人	西濃運輸 3-2 京都パープルサンガ	(京) アンジェロ 草木 (西) 黒田 椎葉2
○	第22節	9月15日	宝が池	3962人	京都パープルサンガ 5-0 東芝	(京) アンジェロ2 パウテル2 野口裕
●	第23節	9月18日	徳島	2385人	大塚製薬 3-2 京都パープルサンガ	(京) アンジェロ2 (塚) 塩谷 レエ 関口
●	第24節	9月25日	西京極	4449人	京都パープルサンガ 0-2 柏レイソル	(柏) 大倉 樹田
○	第25節	9月29日	大和	470人	富士通 1-2 京都パープルサンガ	(京) アンジェロ 肥塚 (富) 黄
●	第26節	10月2日	西京極	4673人	京都パープルサンガ 0-2 セレッソ大阪	(阪) 森島 見崎
○	第27節	10月8日	多摩市立	2200人	東京ガス 0-3 京都パープルサンガ	(京) 草木 アンジェロ エバートン
○	第28節	10月13日	西京極	2014人	京都パープルサンガ 2-1 藤枝ブルックス	(京) エバートン 細川 (藤) 竹元
●	第29節	10月16日	葦崎中央公園	1298人	甲府クラブ 2-1 京都パープルサンガ (Vゴール)	(京) 菅野 (甲) 山村 角谷
○	第30節	10月23日	都田	1860人	本田技研 0-1 京都パープルサンガ	(京) パウテル

総合成績..... 30試合20勝10敗 得点63 失点47 得失点差16 5位
 前期成績..... 15試合11勝4敗 得点31 失点21 得失点差10 4位
 後期成績..... 15試合9勝6敗 得点32 失点26 得失点差6 6位
 ホームゲーム成績..... 15試合12勝3敗 (前期8試合7勝1敗・後期7試合5勝2敗)
 アウェイゲーム成績..... 15試合8勝7敗 (前期7試合4勝3敗・後期8試合4勝4敗)
 自軍先制試合成績..... 22試合18勝4敗 (Vゴール勝ち2試合・PK勝ち2試合含)
 相手先制試合成績..... 8試合2勝6敗 (PK勝ち1試合含)
 延長戦成績..... 8試合6勝2敗 (PK勝ち3試合含)
 PK戦成績..... 3試合3勝0敗
 最多観客動員試合..... 第10節 柏レイソル戦 (日立柏サッカー場) 14845人
 最少観客動員試合..... 第25節 富士通戦 (大和市営大和スポーツセンター競技場) 470人
 最多連続勝利..... 9
 最多連続敗戦..... 3
 無失点勝利試合..... 7
 無得点敗戦試合..... 4
 チーム1試合最多得点..... 5 (4回)
 チーム1試合最多失点..... 5
 最多試合出場選手..... 美濃部直彦 29
 最多連続試合出場選手..... 杉山 誠 24
 個人得点3傑..... アンジェロ17 (リーグ7位) / パウテル12 (同15位) / 野口裕9 (同21位)
 個人最多連続試合得点..... アンジェロ 4
 個人1試合最多得点..... 野口裕 3

プレシーズンマッチ・練習試合成績 (主要試合のみ)

- 3月6日 京都パープルサンガ 2-1 コスモ石油 (西京極)
- 4月7日 横浜マリノス 1-4 京都パープルサンガ
- 7月23日 名古屋グランパスエイト 0-1 京都パープルサンガ (豊田スポーツセンター)
- 7月26日 ヴェルディ川崎 0-0 京都パープルサンガ (福井テクノポート)
- 8月3日 ジェフユナイテッド市原 1-2 京都パープルサンガ (舞浜)
- 8月4日 浦和レッドダイヤモンズ 5-5 京都パープルサンガ (大原)

